
雲のカケラ、チラチラと。

N澤巧T郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雲のカケラ、チラチラと。

【Nコード】

N3098A

【作者名】

N澤巧T郎

【あらすじ】

肌がひりひりする寒い日、外に出るとチラチラと白いカケラが降ってきた。

ガラガラガラッ

ダッダッダッダッ

勢い欲玄關の扉を開け、台所へと走りこんでいく。

「かあちゃ、かあちゃっ！あんな、あんな、空からなっ、雲のなっ、カケラがなっ、落ちてきてるんよ！！！」

かあちゃはお鍋をおたまでかき回すのをやめて振り返り、目線が同じになるように膝をついた。

「あらあら、耳も手も真っ赤じゃないの」

かあちゃの手はすごく暖かい。

「ちゃんと手袋と帽子をかぶるっね」

かあちゃは手袋と帽子を取りに違う部屋に行った。

「とうちちゃっ、とうちちゃっ！！」

タッタッタッタッ

とうちちゃはコタツで丸くなる〜

「とうちちゃっ！あんな、雲がなっ、バラバラになってな、落ちてき

てるんよー!!」

とうちやはボーっとしながら外を見た。

「・・・ああ・・・ホントですねえ」

「なっ!? なっ!? それになっ、すごい冷たいんよ!! 多分凍ってるんよ!! だからな、だからな、集めてな、暖めればな、また雲に戻るんよ!! だからな、集めるんよ!!」

「そうですねえ。いっぱい集めてください」

とうちやは寝ながらみかんに手を伸ばす。するとかあちゃんが帽子と手袋を持ってやってきた。

「お父さんと一緒に集めてたいんだよねえ」

帽子をかぶせてくれながら言った。ちよっと恥ずかしかった。

「でも寒いですよ。コタツは暖かいですよ」

みかんの皮をむきながら言った。

パクモグパクモグ

とうちやはチラッと見た。下を向いてうつむいて、眼を細めている。残りのみかんを口に運ぶ。

「ひかたないですねえ。行きますか」

冬に咲いたヒマワリみたいに笑った。とうちはゆっくりとコタツから出た。

「早くっ、早くっ」

とうちのちゃんちゃんこをグイグイする。

「ちょっと待っててくださいね。手袋を取ってきますから」

とうちの部屋へ行くこととする。

「はい、アナタの」

かあちゃんが笑顔で渡す。

「ありがとうございます」

とうちはやさしく笑いながら受け取った。

ガラガラガラッ

「うっ、サブッ！ー！」

とうちがブルブル震えてる。

「とうちやっ、とうちやっ、きれいなっ、これ、きれいなー！」

負けなくらいきれいな目で言った。

「まだ積もってないですねえ」

白い息が口と鼻から同時に出る。

「積もる？積もるって？これ、積もる？とつちや、消えない？積もる？」

「そうですね。今はまだすぐに消えちゃいますけど。夜には一面に積もっていることでしょう」

「それ…それって…：…すごいなっ！！！」

真っ白な雪が降る中で、紅く染まった頬がいやにきれいだ。

「それでは、寒いですし家に帰りましょう。お昼ごはんが待ってますよ」

「あんな、さっきな、シチュウのな、匂いがな、したんよ」

「よかったですねえ」

「うん！！あれな、納豆の次に好きなんよ」

ガラガラガラッ

「いったただつきまゝすっ！！！」

パクパク

ネリネリネリ

「いつまで練り練りしてるんですか？」

黙々。

「あら、ご飯粒がついてるわよ」

かあちゃんが取ってくれた。かまわず目の前のつやつや光る納豆ご飯にがつつく。

「んますぎる！！！！！」

「ちヨット静かにしましよっねええ」

台所で水を流す音がする。外はもう真っ暗だ。

「もう積もった！？」

顔から期待がにじみ出ている。

「それじゃあ見てみましょうか」

ザー

カーテンを開けると、顔全体からキラキラと音がしてきそっとな顔をしている。

「あはっ！！！！」

窓ガラスが息で曇った。

ガラガラガラ！！

「寒ッ！！」

体がビクツとした。

「うはあ〜」

両手一杯によそって、まじまじと見つめる。黄金の財宝にでも出会ったかのように。

「とうちやっ！！」

絶対忘れることはない笑顔をしながら両手をとうちやに差し出した。とうちやはやさしく微笑みながら、真っ赤になった両手の上に乗っている真っ白でキラキラ光る雲のカケラに両手をかぶせた。

「みて〜らん」

とうちやのあったかい手が離れた。手の上にはふわふわとした真っ白な雲が。

「うわあああああ！！あはっ！！」

しみじみ思う。

この世にこれ以上愛しいモノがあるのだろうか。

「おやすみ……みニヤムニヤ……」

「おやすみ」

「おやすみなさ〜」

雲のベッドはとてもふわふわで、とてもふかふかで、も〜も〜だ。

と〜と〜とかあちはほかほかだ。

明日も良い日でありますように。

(後書き)

「あはっ!!」

窓ガラスが息で曇った。

お気に入りのシーン。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3098a/>

雲のカケラ、チラチラと。

2010年12月19日01時04分発行